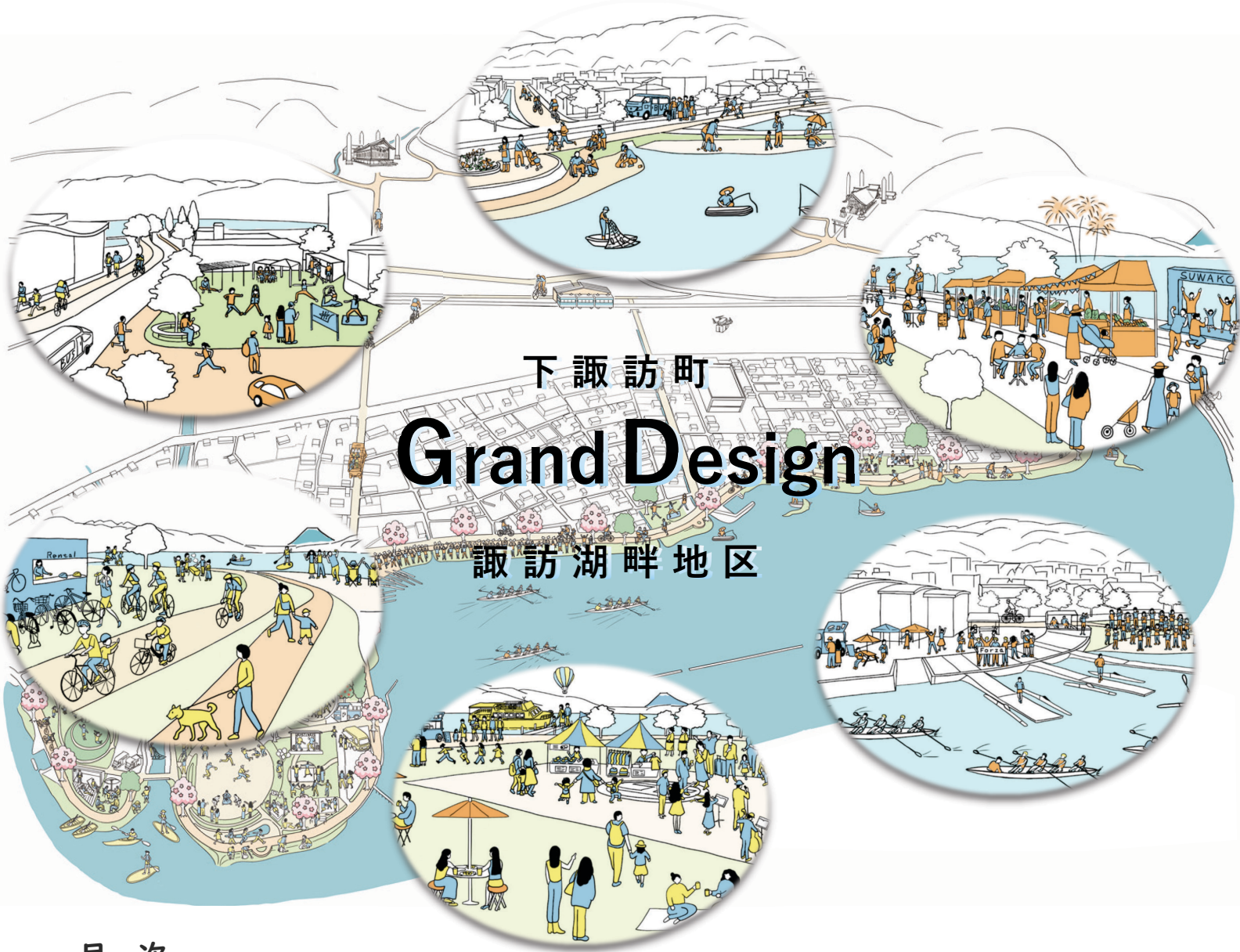




目 次

■ 下諏訪町グランドデザイン

- Ⅰ. 背景・目的 ----- p. Ⅰ
- Ⅱ. 策定のプロセス ----- p. Ⅰ
- Ⅲ. 実現に向けて ----- p. 2

■ 諏訪湖畔地区

- Ⅰ. 基本理念 ----- p. 3
- Ⅱ. 俯瞰図 ----- p. 5
- Ⅲ. 要所図 ----- p. 7

背景・目的

● 背景

下諏訪町は、古くから諏訪大社の門前町として、江戸時代においては中山道と甲州道中の交わる温泉宿場町として栄え、近代においては製糸業や精密機械工業により発展してきました。

しかしながら近年、特に地方都市で急速に進む人口減少や高齢化により、地域の経済や社会に及ぼす影響への懸念が強まっています。そのため、地域経済の活性化や、地域社会に暮らす人々が誇りと満足感を抱ける持続可能なまちづくりの推進が喫緊の課題で、当町においてもこの課題解決に向けたまちづくりを図る取組が必須となっています。

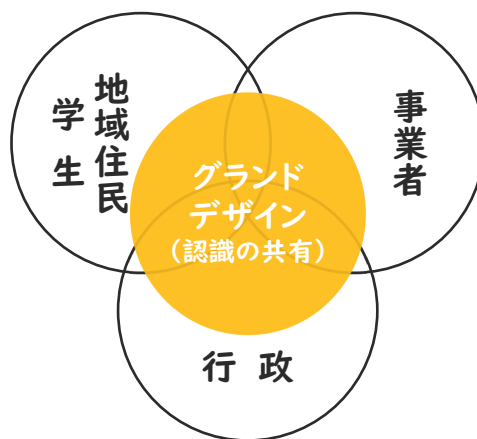
また併せて最近では、移住者による出店、赤砂崎公園・諏訪湖周のサイクリングロードの整備、国道20号バイパス事業等が進められており、当町におけるまちづくりに新たな風が吹いてきています。

こうしたさまざまな動きがある中で、地域住民・事業者・学生等、ここに暮らすすべての「ヒト」と行政がまちづくりに対する認識を共有してまちづくりを進めていく必要があります。

● 目的

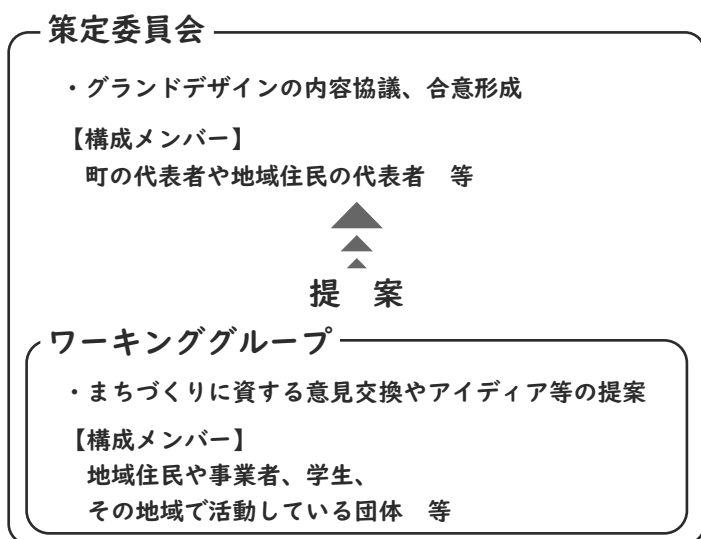
「下諏訪町グランドデザイン」は、みんなが誇りと満足感を抱ける「住みたいまち、元気な声がひびくまち」の実現に向けて、10年、20年後の将来像を共有するために、地域住民・事業者・学生等幅広い立場の方からの意見を集約し、策定するものです。

策定後は、地域住民・事業者・学生等ここに暮らすヒトと行政が一体となって、将来像の実現に向けたまちづくりを進めていくことを目的としています。



2 策定のプロセス

● 策定体制



◀◀ 支援

- ・まちづくりアドバイス
- ・運営
- ・基礎調査 等

UDC信州
長野大学

● 策定の流れ

● 基本理念の策定

● 俯瞰図の策定

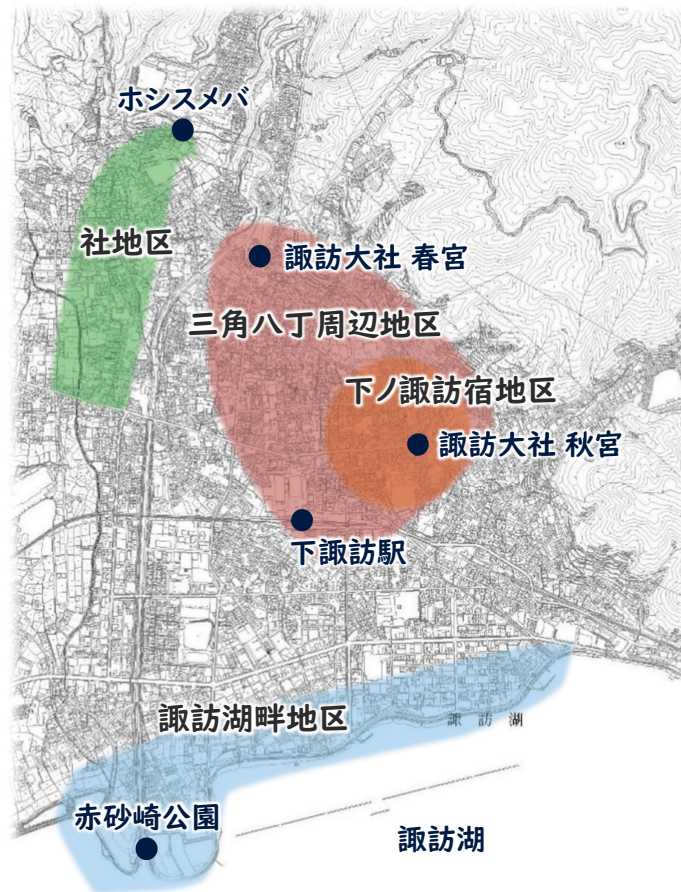
- ・基本理念を実現するために地区全体を俯瞰的に描いた将来像

● 要所図の策定

- ・基本理念を実現するために重点となる箇所の将来像をより詳細に描き、官民で連携して取り組める方針

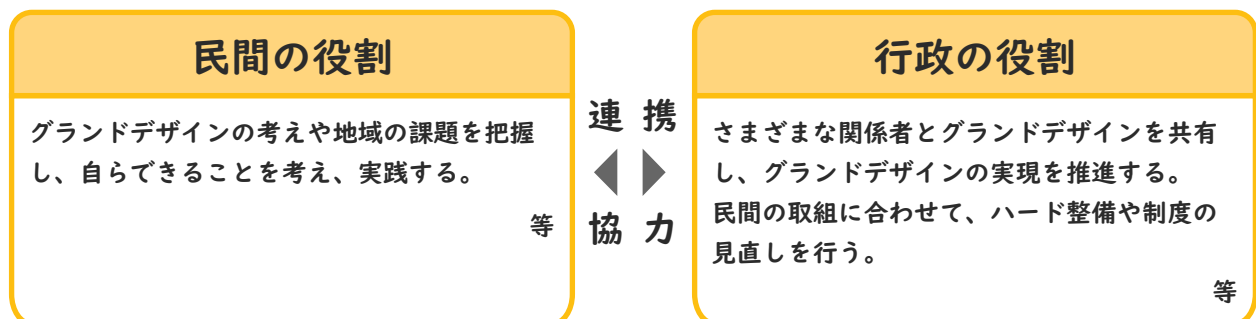
● 地区グランドデザインの策定

● 策定地区



3 実現に向けて

● 実現に向けた体制



01 みんなで将来像を思い描く

02 実現に向けたまちづくりを進める

03 将来像の実現

グランドデザインの策定
基本理念
将来像（俯瞰図・要所図）



step 1
実現に向けた
検討

step 2
実証実験等を
実施し効果検証

改善

step 3
ソフト事業の構築
ハード整備



目指すべき
「将来像」の実現

I 基本理念

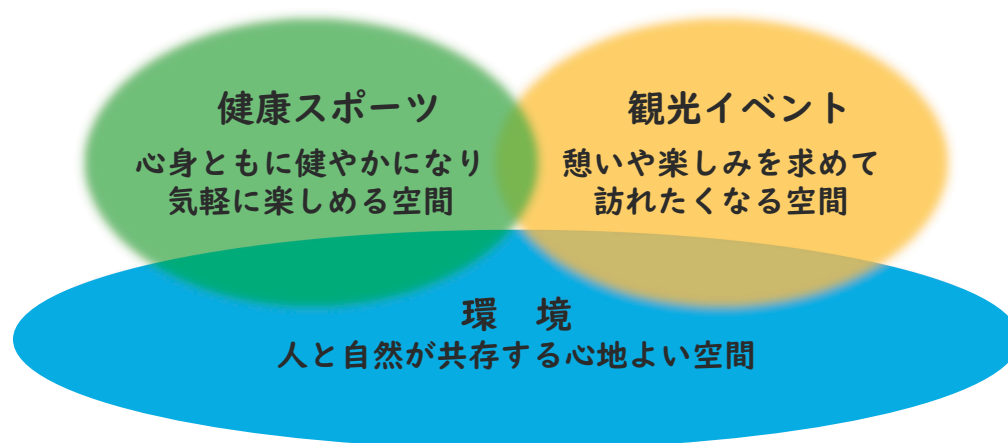
● 対象エリア



● 基本理念

諏訪湖畔地区は、「住みたいまち・元気な声がひびくまち」の実現に向け、美しい諏訪湖周辺で自然と共存し、誰もが「健康づくりやスポーツを楽しめる」、「憩い訪れたい」水辺空間の創出を目指します。

● まちづくりに向けたテーマ



II 俯瞰図

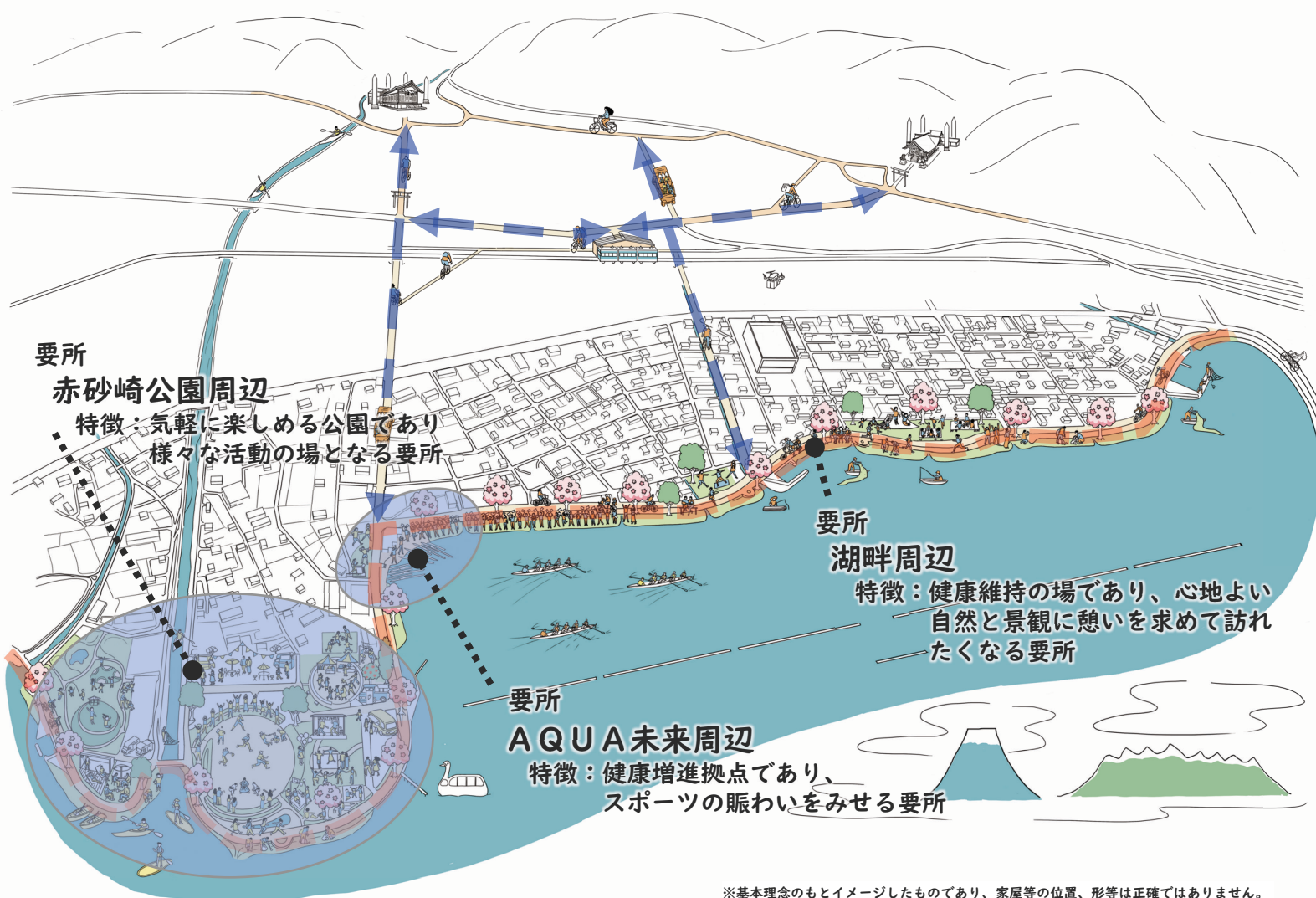
基本理念を実現するために地区全体を俯瞰的に描いた将来像です。

【5～6ページ参照】

III 要所図

基本理念を実現するために重点となる箇所の将来像をより詳細に描き、官民で連携して取り組める方針を示すものです。

【7～9ページ参照】



※基本理念のもとイメージしたものであり、家屋等の位置、形等は正確ではありません。





※基本理念のもとイメージしたものであり、家屋等の位置、形等は正確ではありません。

赤砂崎公園周辺

～気軽に楽しめる公園であり、様々な活動の場となる要所～

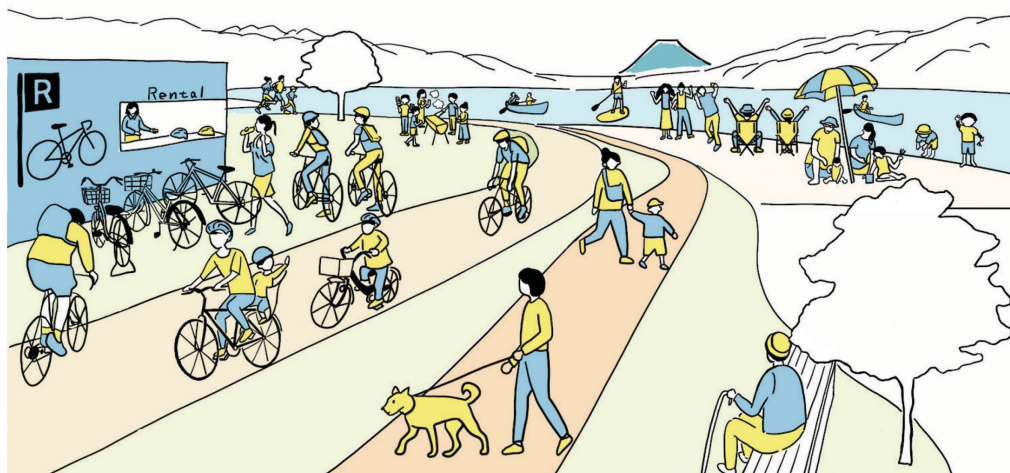
<概要>

町の地域防災拠点として整備された、都市公園。広い園内には、グラウンド、諏訪湖や山々を眺望できる丘、遊具を楽しむスペースに加え、ジョギングロードやバーベキュースペース、車中泊場など、さまざまな目的で利用できる。「砥川ふれあい渚」がスワレイクサイドオアシス※に指定されるなど、諏訪湖滞在の拠点にもなり得る。

日常

さまざまな人々がそれぞれに諏訪湖畔を楽しみ、ゆったり過ごせる「砥川ふれあい渚」

<現況・課題>



- ・水辺に近づける砂浜護岸が整備されている
- ・水上アクティビティを楽しむ人も見られる
- ・地域住民の日々の憩いの場になっているが、滞在できる空間が不足している
- ・滞在の拠点になり得る

<取組方針> 日常的に湖畔のアクティビティを楽しみ、湖と親しめる、憩いの場を創出する。

○官で取り組めること

- ・水上アクティビティやサイクルポート等のアクティビティの提供やカフェ等の滞在拠点となる施設運営を担える事業者の誘致

○民で取り組めること

- ・子どもやペットを連れて、日常的に湖畔の魅力を楽しむ、のんびり滞在して楽しめる場やサービスの提供・運営

非日常

広々とした湖畔空間を活かしたイベントに、多くの人々が訪れてにぎわう砥川左岸

<現況・課題>



- ・多目的広場や防災ヘリポート広場など広い空間が整備されている
- ・下諏訪港の棧橋が残されている
- ・広々とした駐車スペースが確保されている
- ・有事に備えた広域防災拠点としての機能を有する

<取組方針> 防災ヘリポート広場や駐車場などを活用した定期的なイベントの開催を促進し、人々が集まるにぎわいの場を創出する。

○官で取り組めること

- ・キッチンカーや地元の飲食店などの出店を促進するための仕組みの構築
- ・遊覧船発着点の整備等アクセス向上の支援

○民で取り組めること

- ・湖畔の賑わいを生み出すイベントの開催
- ・下諏訪港を活用した遊覧船事業の展開

※スワレイクサイドオアシス…諏訪湖周のジョギングロード、サイクリングロードをより気軽に快適に利用するためのトイレ、ベンチ等を有する施設

AQUA未来周辺

～健康増進拠点であり、スポーツの賑わいをみせる要所～

<概要>

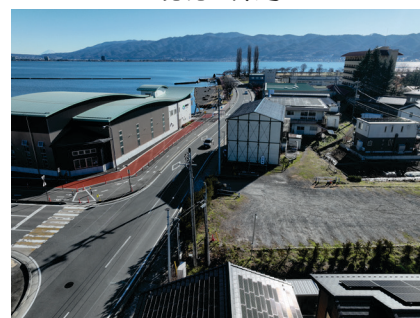
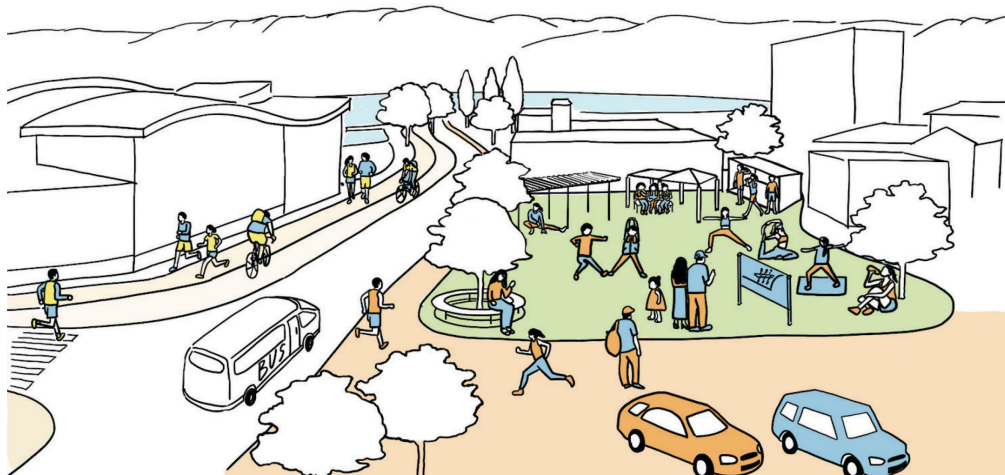
ボート競技用コースを備える漕艇場「下諏訪ローイングパーク（AQUA未来）」を筆頭に、屋内外の健康運動施設が揃い、町民の健康維持に加え、県外からの合宿等での利用や、トライアスロン等の会場としても活用されている。

AQUA未来の西側（湖の反対側）に位置する「鍊成の家」は解体し、広場としての再整備を予定している。

日常

日々の健康づくりの場として、諏訪湖畔の玄関口として生まれ変わる鍊成の家跡地

<現況・課題>



- ・解体予定の鍊成の家と駐車場として利用されている砂利敷きの広場
- ・運動前後に利用できる更衣室やシャワーなどの施設の不足
- ・諏訪湖畔の来訪者に向けた総合的な案内看板がない

<取組方針> 健康増進の拠点として日々のフィットネス活動の場を整備するとともに、諏訪湖畔の玄関口として、訪れる人に対してウェルカムな雰囲気を醸成する。

○官で取り組めること

- ・諏訪湖畔地区の玄関口としての空間整備や観光総合案内板の設置
- ・フィットネス活動拠点としての施設整備
- ・健康増進を目的としたプログラムの提供

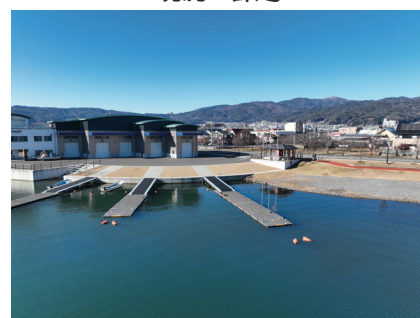
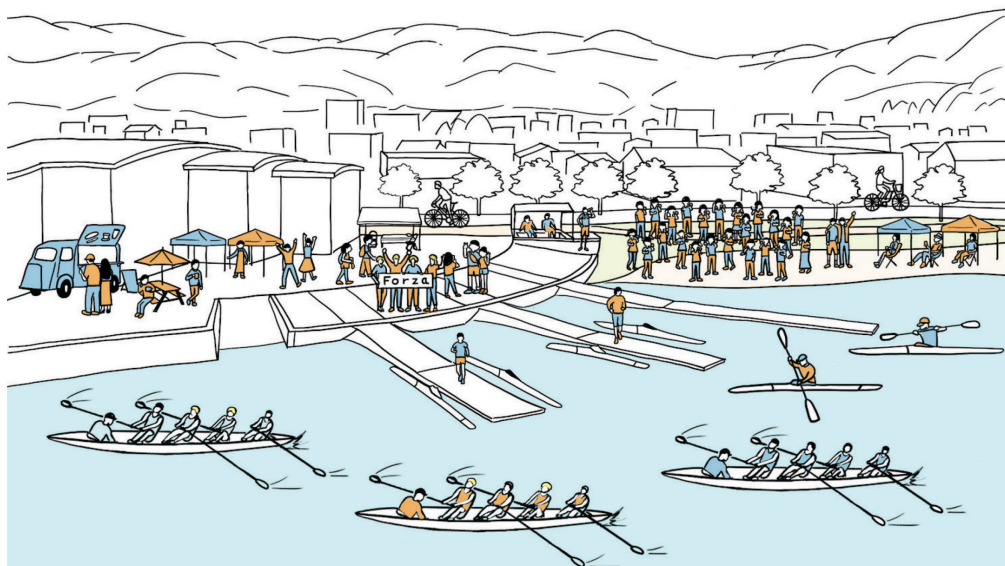
○民で取り組めること

- ・運動後の飲食の提供、イベントの開催
- ・芝生広場でのヨガやフィットネスなど健康づくりの場としての活用

非日常

水上スポーツの大会やイベント等で、地域内外の人々が湖の魅力を体感できるAQUA未来

<現況・課題>



- ・AQUA未来や足湯など施設が充実している
- ・水上スポーツの部活動や大会で頻繁に利用される場である一方、実証実験等により、にぎわいを創出できる場であることが確認されている
- ・有事にそなえた水上防災拠点施設としての機能を有する

<取組方針> 水上スポーツを楽しめる空間や体験機会を創出し、地域住民、来訪者、体験者、選手など誰もが諏訪湖の魅力を体感できる環境をつくる。

○官で取り組めること

- ・水上スポーツの環境整備と地域住民が応援などで湖畔を訪れる機会の提供
- ・海外選手の受け入れや合宿機能の強化によるインバウンドの来訪促進
- ・大会やイベント等に応じた周辺施設（鍊成の家跡地等）の多目的な活用

○民で取り組めること

- ・イベント時にオープンスペースを活用したキッチンカーや飲食店の出店
- ・水上スポーツの体験機会の提供や地域住民向けイベントの開催

湖畔周辺

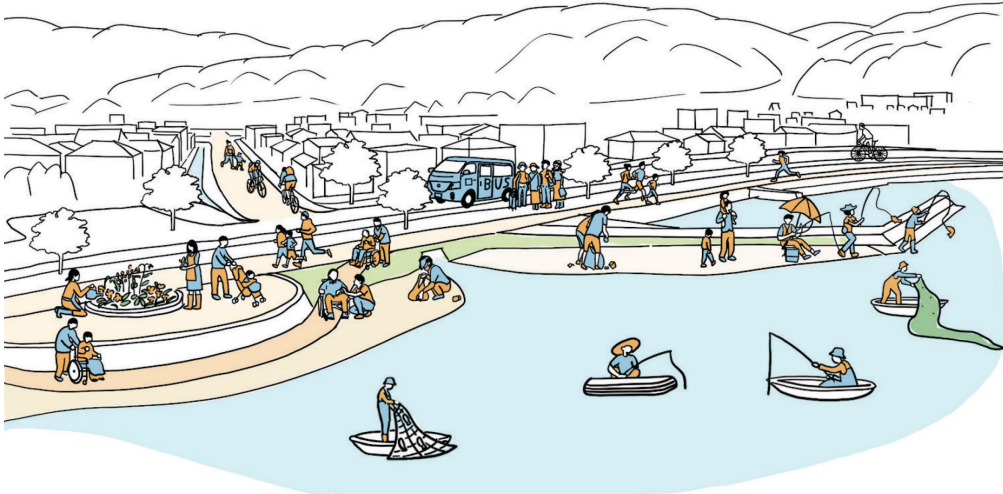
～健康維持の場であり、心地よい自然と景観に憩いを求めて訪れたくなる要所～

<概要>

令和6年4月に諏訪湖サイクリングロードが全線開通し、赤砂崎公園、AQUA未来、みずべ公園が「スワレイクサイドオアシス」に指定された。「関東の富士見百景」に登録されている景観や、諏訪湖のさわやかな風を感じることができる湖畔を線的に捉えた要所。

日常

まちなかに円滑にアクセスでき、誰もが気軽に水辺と親しめる湖畔



<現況・課題>



- ・諏訪湖サイクリングロード、ジョギングロードが整備されている
- ・古川通り線は下諏訪まちなかへの比較的安全なルートとして利用されている
- ・漁業、ヒシ取りなど環境保全活動が行われている

<取組方針> 誰もが安全かつ快適に、水辺と親しむことのできる場や、多くの人々が湖の保全活動に携われる仕組みをつくる。

○官で取り組めること

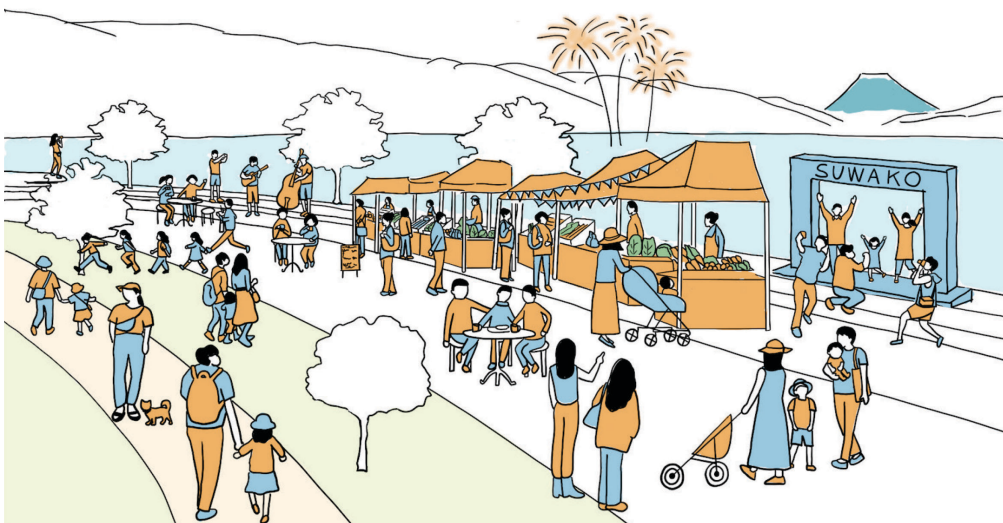
- ・湖畔とまちなかを安全につなぐ歩道や自転車道の整備、モビリティの導入検討
- ・バリアフリー環境の整備等による誰もが利用できる水辺空間の創出

○民で取り組めること

- ・ヒシ取りやゴミ拾い等を通じた湖の保全活動の推進
- ・住民や地域団体が行う花壇の維持管理による景観の創出やコミュニティの形成
- ・釣り等諏訪湖を資源とした体験活動の推進

非日常

遠方に富士山を望む秀逸な景色と心地よい湖の雰囲気を楽しむ湖畔道路



<現況・課題>



- ・「関東の富士見百景」の湖畔には小さな案内看板が設置されているのみで、わかりにくい
- ・車道、サイクリングロード、ジョギングロードが整備されたゆとりある幅員の道路はイベント空間としても活用可能性がある

<取組方針> まちなかから気軽に訪れ、湖畔の環境や景色を味わい、滞在して楽しめる場の創出を図る。

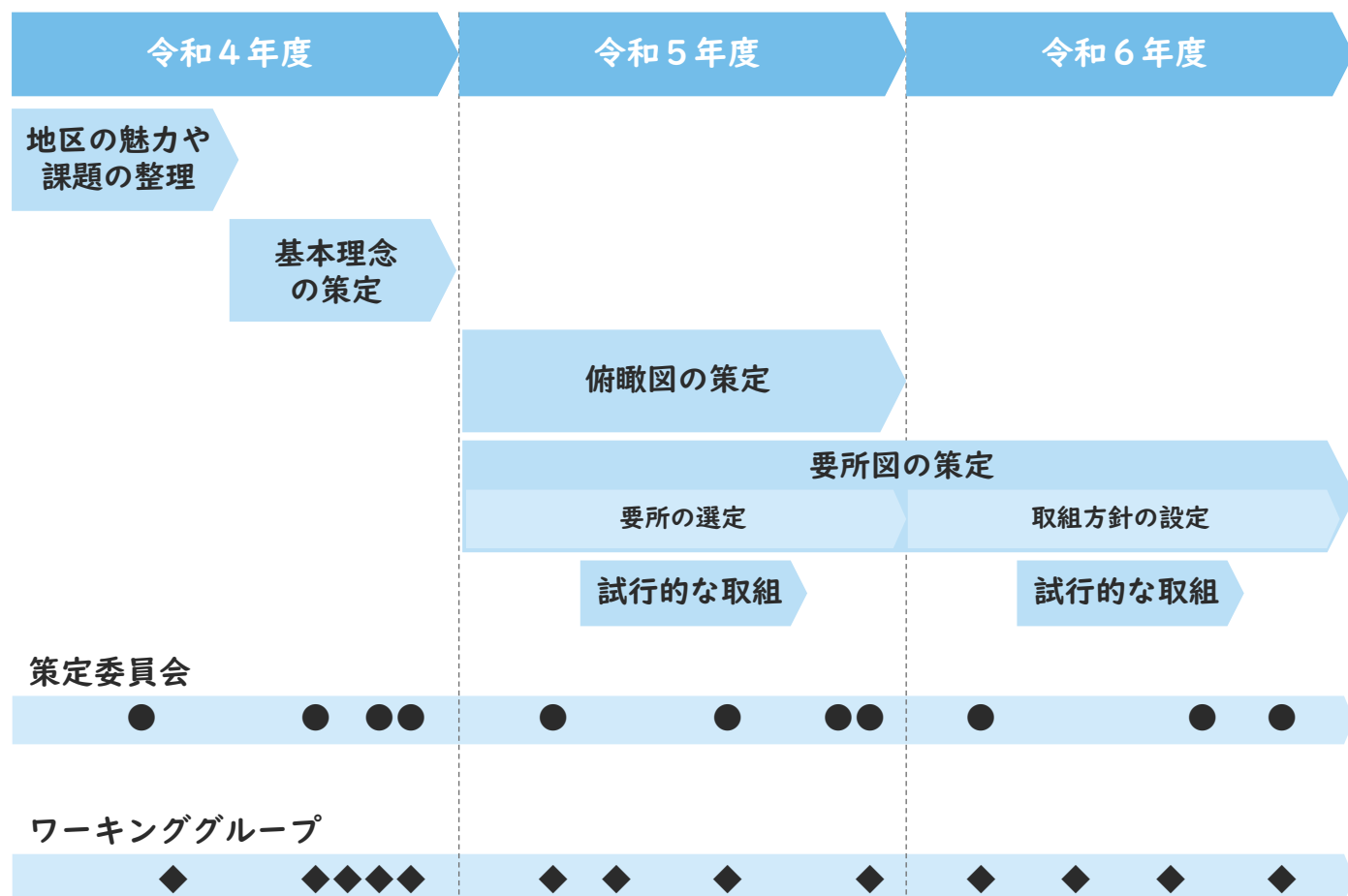
○官で取り組めること

- ・「関東の富士見百景」に選定された景観を活かし、誰もが訪れたくなるフォトスポットとしての整備
- ・湖畔周辺に位置する公共空間の活用

○民で取り組めること

- ・湖畔沿いの道路（車道を含む）を活かし、湖畔の魅力を満喫できるイベントの開催

● 策定の経過



＜参考図＞交通ネットワークの整備とともに諏訪湖の新たな玄関口として広域的なつながりが期待される諏訪湖畔地区



「下諏訪町ランドデザイン 諏訪湖畔地区編」

発 行 令和7年2月

発行者 下諏訪町

※ 本事業は「長野県地域発元気づくり支援金」を活用しています。